

令和元年12月17日

都中音研12月地区理事会・常任理事会資料

会長挨拶・連絡

東京都中学校音楽教育研究会
会 長 角 康 宏
(葛飾区立青戸中学校長)

学期末、年末のお忙しい毎日をお過ごしのことと存じます。本年も残すところあと僅かとなりましたが、おかげさまで本会員の皆様方のご理解・御協力の下、本研究会の事業も滞りなく無事に実施することができ、心より感謝申し上げます。

さて、先日全日本音楽教育研究会全国大会東京大会の最後の実行委員会が開催されました。東京大会の研究を以下のように総括しました。

研究局長を務めさせていただきました葛飾区立青戸中学校長の角でございます。私からは本大会研究局のこれまでの経緯につきまして、ご報告と、ご協力いただいた皆様への感謝を申し上げたいと思います。思い起こせば、全日音東京大会の開催を控えた平成29年9月に第1回全日音東京大会研究部会が開催されました。今回の大会は、総合大会ということで、小学校、中学校、高等学校、大学、特別支援学校の各校種から研究に関わる代表者にお集まりいただき本研究部会が発足いたしました。基本的には月1回の研究部会を開催し、2019年10月の研究部会までに合計20回の会合を重ねて参りました。

研究部の始めの大きな課題は、全校種全体の研究主題の設定でした。発達段階の大きく違う各校種のすり合わせに大変苦労しましたが、研究主題を「つなげよう 深めよう 生かそう ♪未来を拓く音楽の学び♪」と設定し、決定することができました。音楽、人、学びとのつながり、音楽を愛好する心情、知識、技能の深まり、音楽の学びを次の学びに活かす、生活や社会に生かすという、今回の東京大会を象徴する大きな全体主題を全国に発信し、東京大会に向けての研究がなお一層活性化するきっかけとなりました。

次の大きな課題は、研究構想図の検討でした。校種をまたいだ研究構想図の検討は困難を極めました。議論を尽くし、先が見えない状態が続き完成まで3、4カ月を要しました。いくつもの案が検討されましたが、最終的には、大会主題を最上部に配置し、校種別の各部会主題、研究の視点を中央に、下部に各校種の公開授業、研究演奏、研究発表を記載する形にまとめました。

また、この研究構想図の構築に関わって、全日音本部から今後4年間継続した研究の視点を設定して欲しいという依頼を受け、「主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善」「生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる力を育む授業づくり」「指導と評価の工夫」という3つの視点を設定できたことは、大きな成果であったと自負しております。

編集部には、各校種の研究成果を掲載する全校種合冊の研究大会誌の編纂にあたりました。全206ページにわたる研究大会誌は、各校種の研究内容を簡潔にまとめ実践に即役立つ事例を網羅し、素晴らしい大会誌を作成することができました。執筆、編集に携わった研究部、編集部の先生方のご尽力に感謝申し上げます。

結びに、全日音研東京大会の研究に携わったすべての皆様方の献身的なご努力と計り知れないご尽力に対して心より敬意を表し感謝申し上げますとともに、50周年を迎えた全日本音楽教育研究会の益々のご発展を祈念申し上げ、研究局長の東京大会総括といたします。ありがとうございました。

【報告】

- (1) 令和元年12月6日(金) NHK学校音楽コンクール運営委員会(渋谷NHK放送センター)
- (2) 令和元年12月11日(水) 全日音研東京大会企画会・実行委員会、懇親会(武蔵野音楽大学)

【予定】

- (1) 12月21日(土) 授業研究部会(杉並区立阿佐ヶ谷中学校)
- (2) 1月18日(土)～19日(日) 東京都中学校アンサンブルコンテスト(府中の森芸術劇場)